

enjoy	en+joy (喜び)	→ 喜んだ状態にする	⇨ 楽しませる
encourage	en+ccourage (勇氣)	→ 勇氣ある状態にする	⇨ 勇氣づける
endanger	en+danger (危険)	→ 危険な状態にする	⇨ 危険にさらす
enable	en+able (可能)	→ 可能な状態にする	⇨ 可能にする
enrich	en+rich (豊かな)	→ 豊かな状態にする	⇨ 豊かにする
enlarge	en+large (大きい)	→ 大きい状態にする	⇨ 拡大する

《ポイント4》下線部(2)に関して。

(1) 「名詞+名詞」という形で、前の名詞が後ろの名詞を修飾することがある。

(ex) health center

その場合、前の名詞は「〇〇のための」と、目的を表していることが多い。
本問の comfort(慰め) はそうすると「慰めのための → 慰めを与えてくれる(ような)、安心感を得られる」とでも訳せばいい。

(2) that は関係代名詞と見る。その理由は、直後に「不完全な文」が来ているから (over という前置詞の目的語がない)。

(3) have control over A: Aを制御(支配)する

(ex) Those who have control over the mass media have control of the nation.
マスメディアを制する者は国を制する
I have no control over what she says.
彼女が言うことを制することができない[権利が無い]
He has no control over himself. 自制がきかない

《ポイント5》「S+V+O+ to do[原形]〜」型。

C

「SVO to do[原形]〜」型をとる動詞は、実際には相当数ありますが、そのうち受験の文法・作文問題で頻出のものを15個あげてみました。これらは超頻出ベスト15です。ですからぜひ、全て丸暗記してしまってください。

- ① want O(人・物) to do~ : Oに〜して欲しい
- ② would like O(人) to do~ : Oに〜していただきたい
- ③ expect O(人・物) to do~ : Oが〜するのを期待する、予期する
- ④ enable O(人) to do~ : Oが〜するのを可能にする
- ⑤ force O(人) to do~ : Oに無理やり〜させる
=compel[oblige] O to do~
- ⑥ allow O(人) to do~ : Oが〜するのを許可する
=permit O to do~
- ⑦ tell O(人) to do~ : Oに〜するよう言う
- ⑧ order O(人) to do~ : Oに〜するよう命令する
- ⑨ persuade O(人) to do~ : Oに〜するよう説得する
- ⑩ advise O(人) to do~ : Oに〜するよう忠告する
- ⑪ ask O(人) to do~ : Oに〜するよう求める、頼む
- ⑫ cause O(人・物) to do~ : Oに〜させる
- ⑬ get O(人・物) to do~ : Oに〜させる
- ⑭ encourage[urge] O(人) to do~ : Oに〜するよう促す
- ⑮ warn O(人) to do~ : Oに〜するよう警告する

《ポイント6》「前置詞(句)+関係代名詞」の訳出の仕方。

これはとある学生からの質問です。

「センターの過去問からなのですが

A sustainable society is one in which people use natural resources carefully, always thinking about how to replace them.

という英文の、構造がよくわかりません。特に one in which の所が？です。いつも前置詞+関係代名詞が出てくると困ってしまうのですが、どうやって読めばよいのでしょうか(0>ω<0)。たとえば、前置詞+所有格の関係代名詞などになるとちんぷんかんぷんです…(涙)

彼と同じような問題を抱えている方も多いのではないのでしょうか。

まずご指摘の英文の意味は「持続社会とは、人々が天然資源を慎重に活用し常にごのようにそれを代替すべきかについて考えている社会である」となるでしょう。one は「a+既出の単数名詞」を指すのが基本ですから、ここでは a society を指していると見るべきでしょう

愈ももちろんこの one[=a society] が in which 節の先行詞。

in which は、もともと in the society として後続の節内にあったものが the society → which となり、それが直前の in と共に節頭に移動したものです。

で、in which のような「前置詞+関係代名詞」の訳出法ですが、ひとつは、(普通の関係代名詞の場合と同じように) 訳さないという方法があります。上の英文の(ボクが作った)和訳でも in which は(単なる二文をつなぐ接着剤と見なし)和訳には出していません。

もう一つの方法は、

- ①「前置詞+関係代名詞」の手前でいったん訳をまとめ、
- ②「そして」「しかし」「なぜなら」といった接続詞を補い、
- ③関係代名詞に先行詞を代入して訳出する

という方法もあります。特に「イディオム的な前置詞(句)+関係代名詞」の場合や、スラッシュリーディング等では、この手法で和訳すると速読につながるでしょう。「イディオム的な前置詞+関係代名詞」について、その種の例文を一つ挙げてみましょう。

He set out on a dangerous adventure in the course of which he had to feel his way with the utmost care.

《語句》 set out on A: Aに乗り出す(出発する)
feel one's way: 手さぐりで進んでいく
with the utmost care: 最大の注意を払って
in the course of A: Aの間で(において)

この英文中の「前置詞+関係代名詞」は of which ではありません。in the course of which です。

愈 in the course of をワンセットで一つの前置詞とみなす。このように、複数の語句が集まって(ワンセットになって)一つの前置詞の働きをするものを「群前置詞」という。これらは受験では超頻出。ボクのホームページの「センター文法・語法スーパーチェック」というファイルの29ページと97ページ以降に詳しく載っているので、本番までにしっかり自分のものにしておくといい。

上で説明したように、in の手前でいったん訳をまとめ、「そして」という接続詞を補

って、更に which に先行詞(a ~ adventure) を代入し、以下のように読んでいくわけです。

He set out on a dangerous adventure / in the course of which /

彼は危険に満ちた冒険に出発した

そしてその(冒険の)間(じゅう)

= and in the course of the adventure

he had to feel his way

手さぐりをしながら(先を)進んでいかなければならなかった

/ with the utmost care.

最大(限)の注意をもって → 注意を払って

【全訳】 「彼は危険に満ちた冒険に出発した。そしてその(冒険の)間(じゅう)、最大(限)の注意を払って手さぐりをしながら(先を)進んでいかなければならなかった」

《ポイント7》文中での with の可能性。

英和辞典で with を調べると20数個もの意味が書かれていて、英文中で現れた with がそのうちのどの意味になるのか、瞬時に見極めるのに苦労するし、第一それだけの with を頭に入れることは不可能だ。そこで、解釈に必要なものを中心に5つにまとめてみた。特に(1)~(3)で英文中の with の70%をカバーできる。だからまずこの3つの with の意味からマスターしよう。

(1) 「~といっしょに(共に)」

(ex) He works with his father. 彼は父と一緒に働いている

※時間的な同伴を表して「~につれて(共に)」という意味になることもある。

(ex) He rises with the sun. 彼は日の出と共に起きる

He got kind with age. 彼は年と共に親切になった

※「意見・考え等が一緒」というところから、「~に賛成して」という意味にもなる。

(ex) I am [=agree] with you all the way. 私は全くあなたの案に賛成である

※「共にある(いる)」というところから、「合っている」「調和している」「一致している」という意味にもなる。

(ex) The curtains don't go with the blue carpet.

そのカーテンはブルーのカーペットと合わない

(2) 「~を持った」「~を身につけて」「所有・携帯」 ⇔ 要するに having~ で言い換えられる with。

(ex) I prefer the dress with the collar.

私はえりのあるドレスのほうが好きである

a girl with blue eyes 青い目の少女

(3) 「~で(もって)」「~のおかげで(~ので)」【手段・原因】

(ex) She tied the package with a red ribbon.

彼女はその包みを赤いリボンで結んだ

※道具は with で表し、行為者は by で表す。

(ex) He was shot with a gun. 彼は銃で撃たれた

He was shot by a hitman. 彼は殺し屋に撃たれた

His hands froze with cold. 彼の手は寒さで凍った

(4) 「動詞 + A with B」型

ある動詞の後に「A with B」という形が続く場合、その動詞の意味は2つに分類することができる。つまり、

① 「AにBを与える」

- (ex) provide A with B 「AにBを与える」
 furnish A with B 「AにBを与える」
- ② 「AをBと結びつける」
 (ex) combine A with B 「AをBと結び付ける」
 associate A with B 「AをBと結びつける、関連させる」

◎(5) 「with+O+C」構文

- ① 「with O(名) C」という形で「OがCの状態」という意味になる。
 Oには名詞(代名詞なら目的格)が入る。
- ② Cには「形容詞」「分詞」「前置詞+名詞」「副詞」等が入る。
- ③ OとCには、意味上「(OはCする(になる/である))という主語と述語の関係」が成立している。
 だから英文中で「with+名詞」の直後に「形容詞」「分詞」「前置詞+名詞」「副詞」があり、かつそれらと直前の「名詞」との間に「主語と述語の関係」を読み取ることができたらこの with O C構文なのではないか、と頭を働かせること。

with + 名詞 + $\left\{ \begin{array}{l} \text{「形容詞」「分詞」} \\ \text{「前置詞+名詞」} \\ \text{「副詞」} \end{array} \right. : \text{「OがCの状態で」}$

[主語] [述語]

実際の例文で今度は見てみよう。特に「C」のバリエーションに注目。

(ex) with the ribbon **flying** in the wind 風にリボンをなびかせながら
 [現在分詞]

with one's mouth **full** 口に食物を頬張った状態で
 [形容詞]

with one's hands **in one's pockets** 手をポケットに入れた状態で
 [前置詞+名詞]

with the tape recorder **on** テープレコーダーがオンになっている状態で
 [副詞] ⇨ テープレコーダーで録音しながら

會余裕のある人は更にあと4つの意味を覚えてしまえば鬼に金棒だ。

(6) 「～に関して」【関係(連)】

(ex) Something is wrong with A: Aはどこか具合が悪い
 The nurse is gentle with her patients. その看護婦は患者に優しい

(7) 「もし～があれば」【条件】 ⇔ without～ 「～がなければ」

※主節に「推量の助動詞」があることが多い。
 (ex) I **would** be able to move the stone with the machine.
 その機械があればその石を移動させられるのだが

(8) 「with+抽象名詞」は副詞化する。

(ex) with ease = easily: 簡単に
 with rapidity = rapidly: 素早く、迅速に

(9) その他

① with all A: Aにもかかわらず =in spite of A
 =despite A
 =for all A

(ex) With all his faults, I love him still.

欠点はあるけれど私はまだ彼を愛しています
With all his wealth, he is not happy.
あれだけの富がありながら彼は幸福でない

※ただし、「原因・手段」を表す with に「all+名詞」がくっついただけの with all～もあるので、そのあたりは区別ができるようにしておかないといけない。

(ex) With all this work to do, I don't know if I'll have time to go out.
こんなにすることがたくさんあるので、出かける時間があるかどうかわからない

②with that:こう[そう]言って、こう[そう]やって

(ex) With that, he left the room. 彼はこう言って部屋を出て行った

《ポイント8》比較で大切なこと。

原級比較や比較級において than 以下、(so[as] ~as の後半の)as 以下が省かれてしまっていることがあります。理由は、(それについては既に述べられていたり、また社会的常識であるという理由で)分かりきっているからなのですが、和訳の際には、その省かれている than 以下、 as 以下がなんなのかを意識して訳すことが大切です。

(ex) My grandfather is much better this morning.

上の英文の場合、「祖父は今朝は、ずっと具合が良くなりました」と訳せます。この内容から「昨日[昨夜]よりも(than yesterday[last night])」あたりが省かれているのではないかと類推するのです。

そこで本文の 24行目の ~ not as appreciated. も 末尾に as in space を補ってあげるので。そうすると「宇宙における程には」という和訳が付け足され、より理解がしやすくなりますね。

《ポイント9》「疑問詞+to do[原形]～」。

「疑問詞+to do[原形]～」は、名詞用法(の不定詞)として文中で「主語(S)」「目的語(O)」「補語(C)」のいずれかになります。

(ex) I don't know what to do next. 次に何をすべきかわからない
S V O

上の英文では、what to do next が know の目的語になっています。

そして「疑問詞+to do[原形]～」は、訳す場合には「疑問詞+(す)べきか」と訳すのが特徴です。

(ex) I asked him where to go. 私は彼に、どこに行くべきか尋ねた
S V O₁ O₂

他にも具体例をあげてみましょう

what to do	「何をすべきか」	which to choose	「どちらを選ぶべきか」
where to go	「どこへ行くべきか」	how to shift gears	「どうやってギアを変えるか → ギアの変え方」
when to start	「いつ出発すべきか」	how to live	「どう生きるか → 生き方」

「疑問詞+to do[原形]～」に関するその他の注意事項を以下にあげておきます。

①how to do～だけは「どのように～すべきか」「～の仕方(やり方、方法)」と、2種類の訳し方ができる。

②what と whichに関しては、「what+名詞 to do～」 「which+名詞 to do～」 と、直後に「名詞」を伴う形もある。この what や which の後ろの名詞は、what, which の具体的な中身を説明しており、「what[which]=名詞」の関係になっている。

(ex) I didn't know which way to choose.
どちらの道(やり方)を選ぶべきかわからなかった

上の例文は way がなくても意味は通じますが、そうすると「どちらを選ぶべきか」という漠然とした内容になってしまいます。wayをつけることによって which の中身が「道(方法)」だったとハッキリします。つまり which=way の関係になっているのです。

③「疑問詞+to do[彫]～」は「疑問詞+S+should+do[彫]～」で書き換えられる。

(ex) I didn't know what to do next.
=what I should do next

《ポイント10》『核』のイメージ。

(1)significant.

significant の『核』のイメージは「意味(義)がある」。

◎sign は「記号」。記号とは「意味を持つ(がある)印」のこと。そこから「意味がある」という意味が生まれた。

その『核』のイメージ通りの「意味のある、意義深い」という意味があります。

(ex) It was a significant event for his family.
それは彼の家族にとって意義深い行事だった

また **be significant of A** で「Aを意味する、表す」という意味にもなります。

(ex) This is highly significant of her intentions.
このことは彼女の意図を非常によく表している
Her gesture was significant of consent. 彼女の身振りは承諾を表していた

「意味ありげな、含みのある」という意味でも用いられます。

(ex) She said so with some significant look.
彼女は何か意味ありげな顔つきでそう言った
The speaker ended his talk with a significant word.
講演者は含みのある言葉で演説を締めくくった

「重要な意味を持つ → 重要な、大切な」という意味にもなります。

(ex) The difference in our ages is not so significant.
私たちの年齢の差は大して重要ではありません
It was a significant step toward the political reform.
それは政治改革への重大な前進であった

「重大な意味を持つほどの → ①かなりの、相当の ②著しい、際立った」という意味にもなります。

(ex) The generator produces a significant amount of energy.
その発電機はかなりの量のエネルギーを生み出します
There was a significant increase in population.
目立った人口増加があった

A significant number of people were present in the stadium.
スタジアムにはかなりの数の人々がいた

(2)store.

store の『核』のイメージは「必要なものを積み込む、蓄える」です。

- (ex) They stored their ship with provisions.
彼らは船に食料を積み込んだ
The farmers stored vegetables for winter use.
農家の人達は冬に備えて野菜を蓄えた

名詞として以下のような意味にもなります。

①「蓄え、蓄積、貯蔵、持ち合わせ」

- (ex) Mice and squirrels lay in a store of food for the winter.
ネズミやリスは冬に備えて食料を蓄える
a store of books 蔵書、図書在庫
They have plenty of rice in store. 彼らは大量の米を蓄えている
倉 in store で「蓄えて(られて)、用意して」。

②[stores で]「(食料・衣料・武器等の)備え、用意、備品」

- 倉「蓄えられているもの」ということ。
(ex) military stores 軍需品

③「豊富、多量、たくさん」

- (ex) She has vast stores of experience.
彼女は経験を豊富に積んでいる
a store of evidence たくさんの証拠
They had stores of food. 彼らには食料の蓄えがあった
倉 a (great/ good) store of A, stores of A で「多量のA」。

カタカナ英語でおなじみのストアー、つまり「店、商店」という意味は、「商品が蓄えられている(またそれを供給してくれる)場所」ということです。

(3)order.

order の『核』のイメージは「(規則正しい)状態・順序・序列」です。

倉語源はラテン語の ordo(直列)。「(序)列」だから「きちんと整列・整頓」されていなければならない(そしてそれは「正常な状態」でもある)し、「順序」や「秩序」も必要。また「命令」されて「列」は作られる…と、様々意味が転じた。

そこから以下のような意味が生まれました。

①「順序、序列、順番」

- (ex) in alphabetical order ABC順に
in the right[wrong] order 正しい順で[順番が狂って]
in order of age[application, importance]
年齢[申し込み、重要さの]順に

②「整理・整頓(された状態)」

- (ex) I put[set, left] my life in order. 私は生活を整理した
The house was in order. 家は整然としていた

③「正常な状態」

- (ex) in (good) running[working] order 調子よく働いて

The public telephone is out of order. この公衆電話は故障している

④「秩序」

(ex) public order 公共の秩序
the order of things 物事の秩序
Teachers should keep order in their class.
教師はクラスの秩序を維持すべきだ
=Teachers should keep their class in order.

⑤「命令」

(ex) They acted on orders from superiors.
彼らは上役の命令に従って行動した

⑥「注文(の品)」

(ex) an order of fruit salad フルーツサラダー人前
May I have your order, please? (レストランなどで) ご注文は?

動詞の order は以下の2つの語法が重要です。

①[order A(人) to do[動]~]「Aに~するように命じる」

(ex) He ordered me to do the job alone.
彼は私にその仕事を一人ですよう命じた

②[order A(品物) from B(場所・店)]「AをBに注文する」

(ex) He ordered two books from London. 彼はロンドンに本を2冊注文した

ちなみに **ordinary(普通の、並みの)** という形容詞は、元々「(規則正しい)順序通りの」という意味です。

(4)any & some.

①any

any の『核』のイメージは「いかなる~であれ」「どんな~にせよ」です。

①any も some も可算名詞を指す(に付く)場合は3者以上の物(人)を表す。

any が不可算名詞を指す(に付く)場合は「いくらかでも」。

つまり「どれでも(1つでも複数でも、あるいはどれだけでも)〇〇してよい」という随意(任意)性、自由性を表します。

(ex) Do you have any books to read? 読む本が(何冊か)ありますか

上の英文の場合、「読む(ための)本ならどんな本でもかまわないのですが、なにかありますか」ということです。

(ex) Ask him, if you have any doubt.

何か疑問がありましたら彼にお尋ねください

上の英文は「どんな疑問でもかまわないので、もしあるなら彼に尋ねてください」ということです。

否定文では、その随意性、自由性を否定しますから「(たとえ)どんな~であれ全く…ない」という非常に強い否定を意味することになります。

①不可算名詞に any がついた否定文は「(たとえ)いくらかで(さえ)も…ない」となる。

(ex) I don't have any brothers. 私には兄弟がいない

上の英文は「たとえどんな(類の)兄弟であろうと、私にはそのようなものは一切ない」ということです。

(ex) There is not any ink in the bottle. びんにはインクが少しもない

上の英文は「たとえいくらかのインクといえども、びんの中には一切ない」ということです。

any は、all や every と意味の区別があいまいになりがちですが、all は「(3つ以上のある集団全体をひとまとめにして)すべて(の)」という意味。everyは、all より個別的で個々の成員に次々と関心を向けることを強調します。したがって「あらゆる、ことごとくの、どの…も」といったニュアンスになります。

(ex) Save any foreign stamps for me.

もし外国の切手が手に入ったらとっておいてくれよ

上の英文は「たとえどんな外国切手であれ、ボクのために取っておいてくれ」ということです。all foreign stamps だと「全ての外国切手」、any foreign stamp だと「どんな外国切手でもいいから一枚」、any foreign stamps では「どんな外国切手でもいいから複数枚(あるいは何枚でも)」という意味になります。every foreign stamp は any foreign stamps とほぼ似た意味となりますが、any foreign stampsの方が「たとえどんなものであっても」という意味あいがいより強調されます。

④everyは常に単数名詞を後ろに従える。

②some

some の『核』のイメージは「いくつか」です。

④不可算名詞の前についた場合は「いくらか」。

(ex) Many people were injured and some were killed.

多くの人々がけがをし、何人かは殺された

Let me ask you some questions. いくつか質問させてください

I need some money. お金がいくらか必要なんだ

ただもう少し掘り下げると、some というのは「具体的な数・量・名称を明言しない(あいまいな)場合に用いられる表現」と定義した方がいいでしょう。そうすると以下の some の用例も丸暗記がいらなくなります。

1. [some+可算名詞の単数形] 「ある」「何らかの」「ある程度の」

④直後の名詞の名称を(はっきり)明言したくないから some をつける。

(ex) The man worked in some place in Osaka.

その男は大阪のある所で働いていた

I have read that in some book. 何かの本でそれを読んだことがある

知っていてわざと名前などを伏せる場合には a certain を用います。

2. [some+数詞] 「約」=about

④直後の数を(はっきり)明言したくないから some をつける。

(ex) Some seventy people were present there. そこには約70人の人がいた

3. [some+数・量・程度] 「かなりの、相当な」

④2.から派生した用法。数(量)・程度が大きいことを漠然と表す際につける。

(ex) You will need some courage to swim across the river.

この川を泳いで渡るには相当勇気がいる

I had some trouble over that matter.

あの件ではいささか[相当]苦労しました

これによく似た用法で、会話などで「なかなかの」「大した」という意味もあります。時に皮肉的にも用いられます(その場合、文頭で用いることが多い)。

(ex) He is some scholar. 彼はなかなかの学者だ
I call that some poem. あれはすばらしい詩だと思う
Some weather for a picnic! ピクニックにはひどい天気だ

4. [some~ others...] 「~というものもい(あ)れば…というものもい(あ)る」

(ex) Some (people) are tall and others are not.
背の高い人もあればそうでない人もある

others 以下は省かれることもあります。そのような場合には some は「~という…もいる」「一部の~」等と訳します。

(ex) Some (people) are not good at mathematics. 数学が苦手な人もいる

(5) appreciate.

appreciate の『核』のイメージは「~の良さがわかる」です。

そこからまず「〇(物事)を正しく理解する、認識する、識別する」という意味が生まれました。

(ex) We appreciate the seriousness of the situation.
我々は事態の重大性を認識しています
He can appreciate small differences. 彼はわずかな相違を見分けられます
I appreciate that this is not an easy task.
これが簡単な仕事でないことはよく理解しています

また「~の良さがわかる」から、「(正しい判断 分析などによって人が) 〇(人物・事)の価値を認める」「〇(価値などを)を高く評価する、尊重する」「〇に好意を持つ」という意味にもなります。

(ex) His great ability was fully appreciated by his parents.
彼の偉大な才能は、両親がその真価を認めていた

更に「芸術作品等の良さがわかる」から、「〇を鑑賞する、味わう、分かる」という意味にもなります。

(ex) appreciate poetry[music] 詩[音楽]を鑑賞する
appreciate good food おいしい食物を味わう

また、物や土地等の良さがわかるとその物・土地の価値は上がります。appreciate にはそうして「(物・土地等が)値上がりする、高騰する」という意味が生まれます。

(ex) Gold has appreciated (in value). 金の相場が上がった

そして「良さがわかった」結果として「〇(物・事)に感謝する、ありがたく思う」という意味にもなります。

(ex) I appreciate your kindness. 親切有り難うございます

この「感謝する」という appreciate を使った決まり文句として、以下は覚えておくといいでしょう。

I would appreciate it if you could[would V[動]]~:~していただければ幸いです

💡これは非常に丁寧な依頼を表す会話の決まり文句。it は if 節の内容を受ける。この it の省略は不可。

(ex) I would appreciate it if you could[would] agree to our plan.
私達の計画にご承認をいただければ幸いです

(6)account.

account の『核』のイメージは「計算して書き入れる」です。

會「ac(～の方に)+count(計算する)」が語源。

そこから名詞の場合、「勘定(書)」「計算(書)」「会計」、更に(銀行の)「口座」「預金(残高)」という意味が生まれました。

(ex) Send me an account. 勘定書を送ってください
I have an account with the bank. その銀行に口座がある
My account is empty. 私の預金はゼロです

ちなみに accountant は「会計士」「経理係」のことですが、元々「計算する人」という意味です(ant は「人」を表す接尾辞)。

会社などで金銭を計算し、支出が出れば、上司に報告義務が生まれますね。そこから account には「報告(道)」「説明」「話」「記事」という意味が生まれました。

(ex) We asked an account. 我々は説明を求めた
He gave us a detailed account of the accident.
彼は事故について詳しく報告してくれた
newspaper accounts of the event その事件の新聞記事

更に転じて「理由」「考慮」という意味もありますが、たいていは on account of A で「Aの理由で」、take A into account で「Aを考慮に入れる」という決まり文句で使われます。

(ex) He couldn't come on account of illness. 彼は病気で来られなかった
We must take their ideas into account.
彼らの考えを考慮しなくてはならない

account は動詞としても使われ、「会計報告をする」という意味もあります。

(ex) account to the auditor 監査役に会計報告をする
Please account for every penny you spent.
使った金の全ての使途を全て明らかにしてください

「報告する」から転じて account for A で「Aについて説明する」「A(原因・理由)を明らかにする」という言い方もあります。

(ex) How do you account for your absence from the meeting?
会議を欠席した理由をどう説明しますか

account for A(割合等)は「Aを占める」という意味でも使われます。Aに「数字」や「割合」を表す名詞が来るのが特徴です。

1. 下線部の発音は？

- ① heart[ハ-ト]「心臓」 ② hearten[ハ+テン]「元気づける」 ③ hearth[ハ-ス]「炉端、暖炉」
④ hearty[ハ+ティ]「心からの」

2. figure の意味は？

(ex) I figured up a total. 合計を出した
We figured it (to be) the best plan. 私達はそれが最善の計画だと結論した
Her name figures in history. 彼女の名は歴史上有名だ
Figure it to yourself. それを想像してごらん
I did figures. 計算を試みた
A dark figure was following her. 黒い人影が彼女を尾行していた
He is a great figure in history. 彼は歴史上の偉人だ

☞ figure ... 「(あいまいだった)輪郭をはっきりさせる(がはっきりする)」

3. extemporaneous のアクセントはどこにある？

☞ 「アテグラミズムアスティヴファイ」と覚える！

-ate[-at] gram -ism -ous (暗+)tive -fy
-ude -graph -asm
-ite -ize
-ute ☞ -tributeは例外。

36 → 176(名工大)

30 → 180(名大法学部)

先生、やりました！157点。9割には届かなかったけど、6月まで部活に明け暮れていた自分がこんな点とれたのは奇跡です(ちなみに前は64点でした(汗))。ここまできたのも「9割GET」と先生のセンターの夏期講習のおかげです！先生に出会わなかったらと思うとゾッとします。ありがとうございます。これからはよろしくお願いします(現役くん)

僕は元々無印テキストだったんですが先生の授業や先生のプリント、9割GETのおかげで4月からかなり成績が伸び、完成シリーズから「テキストへの変更が認められました。先生のおかげです！本当に先生に感謝してます！
テキスト変更によってこれからは先生の授業が受けられなくなるのは残念ですが、これからは先生の参考書プリントを活用させていただきます！！(ガチンコファイトクラブ)

先生！恥ずかしながらお話しします…大学受験科に入って第一回目のマーク模試の英語が50点なかったんです…このままでは志望校を変えなきゃいけないとなって9割GET、先生に頂いたプリント、先生の授業に一生懸命取り組みました。そしたらなんと今回120点を超えました！！このまま9割GET目指す！ありがとうございましたm(_ _)m(かなぽん)

マーク模試70アップ!感謝です(もしも)

こんばんわ!!これまで先生の授業には、レギュラーの長文と夏期講習の長文とを受けさせて頂きました。今回の模試っちゃけど、自己ベストが出たと!!前回は117点と落ち込んでたばってん、その悔しさをバネに今日までふんばったかいあったけんね。今回はちょうど180点とれたとって!!めっちゃ嬉しいけん♪ちなみに第3問以降は全解(^^)_U~スマートリーディング読み終わったけん、明日からはスマートリーディングのアドバンスブックと、先生のHPにある文法をちかっぱやりこみたいと思ひよる!!ありがとうございました。(岡田トオル)

昨日の模試自分の目標点数は達成できませんでしたが、先生の講座を受けたおかげで問題も秒殺で解けました\(^o^)/見直しもできたし前回より20点くらい上がりました♪良徳先生本当にありがとうございます(;ω;)!!(坂口)

千種でセンター対策の先生の夏期講習受けてたんですけど、そしたら昨日の全統マークいつもの点より40点くらいあがったんです!もう嬉しくて仕方がありませんでした\(^c^)/なんかスラスラ読めるんですよ☆本当にありがとうございました。けど元が悪いからまだまだ上がる余地あると思うから頑張ります(^ω^)
スマートリーディング使って頑張ります!(笑)(かすみ)

昨日(正確にはおととい)16号で先生の60分だけの無料講座?受けました。(覚えてますかね?授業後すぐにプリント貰いに行った花柄のワンピース着てたんですけど。でも、話したの1分くらいだし覚えてないかも!!!)プリントしっかりやったら本当に出来てびっくり。と言うか、今までの私はなんだったんだろうって感じでした(笑)。良徳様、様です。(めぐ)

なんか模試受けるまではちょっと、先生の「9割Get」とか「スーパーチェック」を疑ってたんですが、前回より50点近く上がったし、文法が見たことあるばっか(7,8問は見覚えがありました)でテスト中一人でびびってました!(笑)これからもお世話になります。

第2回全統マーク模試英語 194 44 でした。これからもついていきます!(ルイージ)

前回の模試が50点以下で今回の模試は99点でした。だけどたった2週間でこんなに伸びてびっくりしました。先生のおかげです(^ω^)でもこのBlogのコメント見てもみなさんももっとと高得点とってて、自分はまだまだだなあと思いました(´;ω;`)(airi◎)

Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever.

明日、死ぬかのように生きろ。永遠に生きるかのようにして、学べ(Mahatma Gandhi)